



特集  
土木遺産Ⅱ  
時を超える技術者のこころ チェコ

Special Features  
Engineering's Heritage II  
Engineer's Feeling Surpassing the Time Czech



## Charles Bridge カレル橋

### モルダウに架かるプラハ最古の橋

チェコの首都プラハは人口120万人の都市であり、その真中をモルダウ(ヴルタヴァ川)が流れる。モルダウは南のオーストリア国境の山岳から流れ、北のバルト海へそそぐ大河である。プラハ市街をみるとモルダウを挟み、東岸には旧市街地、新市街地、ユダヤ人地区があり、西岸にはプラ

ハ城や古い宮殿がある。このモルダウに架かる重厚感あふれる美しい石橋がカレル橋である。今は歩道橋として観光客であふれ返っているが、その昔は、王宮と旧市街地をつなぐ、交通の要として重要な橋であった。

#### 1—カレル橋が建設されるまで

現在のカレル橋が建設される前には、790年頃に木橋が架けられたことが記録として残っている。その橋は洪水で流され、1150年に今度は石の橋が建造された。その石橋は、長さ500m、橋脚が20あり、王女ジュリエッタの名前を取ってジュリエッタ橋と呼ばれた。200年以上にわたって使われてきたが、この橋も洪水で壊れてしまった。神聖ローマ帝国の皇帝カレル4世は、石橋アーチの新しい橋をジュリ



エッタ橋の上流側に建造した。新しい橋は1350年頃に着工され、ジュリエッタ橋より橋面を7m高く、長さ515m、幅9.5mとした。これが現在のカレル橋である。橋がまっすぐでないのは、当時家を避けて造ったためである。

設計は、若き建築家で当時27歳のペトル・パルレーシェが担当した。建設期間は50年にも及び1402年に完成した。橋の両端には防衛上の必要性から門すなわち橋塔を造った。ゴシック調の重厚な塔である。

#### 2—600年にわたり維持される石橋

カレル橋は、モルダウに架かるプラハ最古の石橋であり、600年の間何度も大洪水にも耐えてきたことは、その技術の高さを証明している。建設に50年もの歳月を要していることから解るように、14世紀にこれだけの長大橋を石造でつくるのは、難工事であったと推測される。特に水中基礎は、流量の多い河川では困難であったと思われる。当時の基礎工事の様子がうかがえる図面からは、現在の二重締め切り工法と同様に水を遮断し、中をドライにした後、木杭を地盤に打ち込み基礎を固めているのが分かる。木杭には、やしの木が使われた。その当時、現代の技術にも通じるこうした建設技術があったことは驚異的なことである。

緯度の高いこの地域では、時に川が氷結し、それが溶けて雪解けの出水で流されると、大きな被害を伴う洪水となる。橋脚の上流側には、木で組んだ小さな「やぐら」のようなものがあるが、これは氷除けのために造られた物である。

橋を最も傷めるのが冬季の融雪のためにまく塩であり、補修を定期的に行っている。また、洪水による被害もあり、大規模補修の場合は、仮橋を架けて補修作業をする。

カレル橋がこれまで600年間も使われて、今後も何百年にもわたって維持されていくのだろうと思うと、ヨーロッパの石文化の偉大さに胸を打たれる。

#### 3—歴史と芸術の橋

ゴシック、バロック、ロココ建築と各種の建築物がある「建築博物館の町」と称されるプラハ旧市街地を満喫しながらヴルタヴァ河畔に向かうと、突然大きな塔が目に入る。圧倒的な重量感を持って迫ってくる、カレル橋の橋塔である。

門を潜り抜けると歩行者であふれた橋上に出る。今は歩行者専用になっているが、30年前は車やトラックも走っており、40年前までは市電も通っていた。文化遺産として残すために歩行者専用とした。橋上では、路上パフォーマンスをする人たちもいて、にぎわっている。

ゴシック様式で作られたカレル橋には、欄干に左右15体ずつ、合計30体の聖人の彫像がずらりと並び、橋上の



空間を芸術的に演出している。これらの彫像は、時間をかけて丁寧に作られており、それぞれ作られた時代が異なる。聖人の彫像の中でもっとも古いものは、聖ヤン・ネボムツキーの像であり、この像のレリーフに触れると幸運が訪れるという話で、皆に触られてピカピカに光っていた。少し先には、日本でも馴染みの深い聖フランシスコ・ザビエルの像がある。

対岸のプラハ城は小高い丘の上にあり、見晴らしのよいところである。プラハ城の一角には聖ヴィート大聖堂の尖塔がある。尖塔の頂上までは、200段以上の階段を自分の足で登る必要があるが、プラハ全景が視界に飛び込んでくる。ここからは、赤い屋根の連なるプラハ市街とヴルタヴァ川、その中央にどっしりと構えるカレル橋の全景が見える。

激動の時代を生き抜いたカレル橋。その雄大な証人に改めて感動する。

〈取材協力〉  
プラハ市都市構造計画課イヴァン・ブリツカ氏

- 写真1[前頁上]—プラハ城より見た雄大なカレル橋
- 写真2[前頁左下]—ゴシック様式の重厚な橋塔
- 写真3[前頁右下]—美しいアーチを描くカレル橋
- 写真4[右上]—氷除けのやぐら
- 写真5[左下]—幸運が訪れる聖ヤン・ネボムツキー像
- 写真6[右下]—橋塔より見た人でにぎわう橋上

(写真: 1、植村将一 2、二神健次 3、6、山田耕治 4、塚本敏行 5、生形勝利)

